

SHOW HEY シネマールム

★★★★★

インファナル・アフェア～無間序曲～ (INFERNAL AFFAIRS II)

2003年・中国(香港)映画・119分

配給/コムストック

2004(平成16)年10月11日鑑賞
＜梅田ブルク7＞



監督：劉偉強（アンドリュー・ラウ）・麥兆輝（アラン・マック）

出演：余文樂（ショーン・ユー）／陳冠希（エディソン・チャン）／黃秋生（アンソニー・ウォン）／曾志偉（エリック・ツァン）／劉嘉玲（カーリーナ・ラウ）／吳鎮宇（フランシス・ン）／胡軍（フー・ジュン）

みどころ

潜入捜査官のヤンと、マフィアから警察への潜入者ラウの物語は、「インファナル・アフェア」3部作という大構想に発展した。本作はその第2作。返還直前の香港を舞台に、若き日の二人の登場だ。1997年7月1日の香港返還の日のラストに向かうスリリングな展開は、理屈抜きで面白いもの。第3部も楽しみ。

＜インファナル・アフェア3部作の大構想＞

第1作『インファナル・アフェア』は2002年12月香港で公開されて大人気を博し、アンドリュー・ラウ監督らは香港フィルム・アワード（香港電影金像獎）などの最優秀監督賞を総ナメにした。これが、日本で公開されたのは2003年10月。その『インファナル・アフェア』が全3部作として、構成されたというから驚きだ。しかも香港では、第2部が2003年10月、第3部は2003年12月の公開というから、その製作スピードは尋常ではない。

第1部では、潜入捜査官ヤンをトニー・レオンが、逆にマフィアから警察への「潜入者」ラウをアンディ・ラウが演じていたが、この第2部における若き日の二人の主人公は、ヤンを演じるショーン・ユーとラウを演じるエディソン・チャンの二人。

そしてこの第2部は、2004年香港電影評論学会大獎の最優秀作品賞や、2004年香港フィルム・アワード（香港電影金像獎）の最優秀主題歌賞を受賞している。

＜第1部と第2部の特徴は？＞

第1部は、スタートの場面でこそ、警察学校でともに学ぶ18歳のヤンとラウが一時「接

触」したが、それから10年後の二人が成長してからの物語が映画のメイン。だからこの第2部は、時計の針を逆に回し、若き日のヤンとラウを主人公に描くという異例(?)のもの。したがって第1部ではヤンの上司だったウォン警部(アンソニー・ウォン)には、この第2部ではもう1人同僚のルク(フー・ジュン)がついているし、第2部ではラウのボスのサム(エリック・ツァン)は、まだ尖沙咀(チムサアチョイ)の大ボスではなく、複数の幹部の中の1人という位置づけだ。3部作の大構想ともなると人間関係の整理が大変だが、この物語はその点が非常にしっかりできている。イタリアマフィアと香港マフィアの差はあるものの、あの犬飼大輔『ゴッド・ファーザー』3部作を彷彿させるものがある。

＜物語は大ボスの暗殺事件から＞

物語の時代とその舞台は、1991年の香港。尖沙咀(チムサアチョイ)に君臨していた大ボスのシノ・クワンが暗殺されることからのスタートだ。どこの世界でも「跡目相続」は難しいもの。このクワンの跡目相続の有力者は、クワンの次男のハウ(フランシス・ン)とクワンの部下だった幹部4人、そしてこの4人に割り込もうとしていたサムたちの面々。

そんな跡目相続の権力闘争を勝ち抜いたのは、メガネをかけた知的で冷静そうな次男のハウ。しゃぶしゃぶ(?)の鍋を囲んでいる4人の幹部に対して、1人ずつ静かに電話で話をしたサムは、しっかりと4人それぞれの弱みをつかんでいたようだし、その話術も一流だったようだ。

＜サムは興味深い人物・・・？＞

第1部ではマフィアのボスとして登場するサムは、この第2部ではまだ幹部の1人で、割と控えめ。そして愛嬌があって、人なつっこいキャラ、そのうえ善良そう。そんなサムは、警部のウォンとも仲がいい。映画の冒頭、警察署の中で、サムが、ウォンからドンブリ飯(?)をごちそうになりながら、ちょっとした情報交換会(?)をやっているシーンが登場するほどだ。そんなサムが、その後果たしてどんな展開でマフィアのボスになっていくのだろうか？

＜カギは紅一点のマリー＞

警察とマフィアとの闘争ドラマでは、一般的に女優陣はカゲが薄いもの。それはこの映画でも同じだが、ただ1人サムの妻のマリー(カリナ・ラウ)だけは、重要な役割を演じ、強烈なメッセージを送っている。「女は単純なの。大切な男のためなら何でもする」とのたまうものの、男からみれば、何といってもそれがコワイ!実は、尖沙咀(チムサアチョイ)の大ボス、クワンの暗殺を企んだのは・・・?そしてその暗殺計画を忠実に実行し

たのは・・・？ハウが跡目を継いだのち、その下で忠実に働いていたサムに対して、迫ってくる危険を伝えたのは・・・？

＜女優カーリーナ・ラウの魅力は？＞

この映画においてキーウーマンとなるマリー役を演ずるカーリーナ・ラウは、王家衛（ウォン・カーウァイ）監督の『欲望の翼』（90年）でキュートな役割を演じて大ブレイクした、目の大きな可愛い女優。1964年生まれだから、もう今は40歳になっているが、その美しさは健在。

サムの子分であるラウが、ボスの妻であるマリーに対して密かに想いを寄せたのもわかるというもの。そして、サムがタイの国で身を隠している間、襲われたマリーを助け出して献身的な世話をしていたラウは遂に愛を告白……。さてどうなるのだろうか……。？結論からいうと、やはりまだ若いヤツは軟弱（？）。ボスの嫁さんの方がよほどしっかりしていた、ということだが……。？

＜ウォン警部の相棒ルク警部の登場＞

第1部でヤンとラウに次ぐ準主役となったウォン警部とマフィアのボスのサムは、第2部でも重要な役割で登場するが、第2部のみに登場し重要な役割を果たすのが、ウォンの相棒のルク警部（フー・ジュン）。ルク警部の方がウォン警部より少し若いですが、その権限はウォンと同じ。もっとも同等の権限をもった2人が捜査を指揮するというのは少しおかしいはず……。？映画の中では、この2人はカードを一枚抜くことによって、その都度どちらがリーダーになるのかを決めていたが、それは本当はもっとおかしい……。？。まあそれはそれとして……。映画の中盤、ルクの方が先に警視に昇進するが、ウォン警部による潜入捜査は黙認。男同士の変わらない友情は美しいもの……。

しかし、クワンの暗殺にウォンがからんでいたことが暴露されたため、ウォン警部は、絶体絶命の窮地に陥った。そんな立ち直り不可能なほどのダメージを受けたウォン警部を勇気づけ、再び捜査に復帰させようとしたルク警視は、何とウォンの車に仕掛けられた爆弾によって、ウォンの身代わりに……。ちょっと涙を誘うシーンだが、男同士の友情はいいものだと思える。そして、このルクの犠牲（殉職）があったからこそ、ルクのお墓の前で、「マフィア退治」の誓いを新たにするウォン警部とヤンの2人の姿が真に迫ってくるというもの。

＜香港の歴史のお勉強！＞

香港の歴史の勉強のためには、アヘン戦争の勉強が不可欠だし、そのためには謝晋（シェン）監督の『阿片戦争』（97年）を観るのがベスト。イギリスを中心とする西欧列強の圧力に対抗しようとしながら、もろくも敗れ去った清帝国は、1842年の南京条約

によって香港島が、1860年の北京条約によって九龍島が割譲されたうえ、1898年6月には新界の99年間のイギリスへの租借が決定された。そしてそれから99年後の1997年7月1日、イギリスの直轄植民地だった香港は、ようやく中国へ返還され、中華人民共和国の「特別行政区」となり、「一国二制度」がスタートすることになった。この映画では、この日を境にして、警察は「皇家香港警察」から英王室を意味する頭の2文字が取れて「香港警察」に名称が変わったことが、印象強く描かれている。

そしてこの『インファナル・アフェア』第2部は、第1に1991年、第2に1995年、第3に1997年の時代が描かれる。この時代状況を十分理解しながら、この映画を観ることが必要なことはいうまでもない。

＜第3部への期待＞

映画が終わり、字幕が流れ始めると観客は少しずつ席を立ち始めるのがふつう。この映画でも字幕が流れ終わるまでに約半分の観客が出て行ったが、この映画に限っては、その人たちは大バカ者！なぜなら、その直後にスクリーンに登場する、第3部の予告を見逃すことになったのだから。この第2部が全3部作の中でどのように位置づけられるのか。そして若き日のヤンとラウの姿を描いたこの第2部が、第1部と合わさって、いかなるフィナーレに向かっていくのか、この予告を観ることによって想像され、期待が大きく膨らむことになるわけだ。さあ、2005年5月、日本で公開予定の第3部も必ず観なくては！！

2004（平成16）年10月12日記